

いまきいれ総合病院は、昭和13年に先代が上町地区に診療所を開設し創立82年が経過している。私が58歳で先代より病院を引き継いだ約20年前、病院が現在の耐震基準になく建て替える必要があるという問題が生じた。

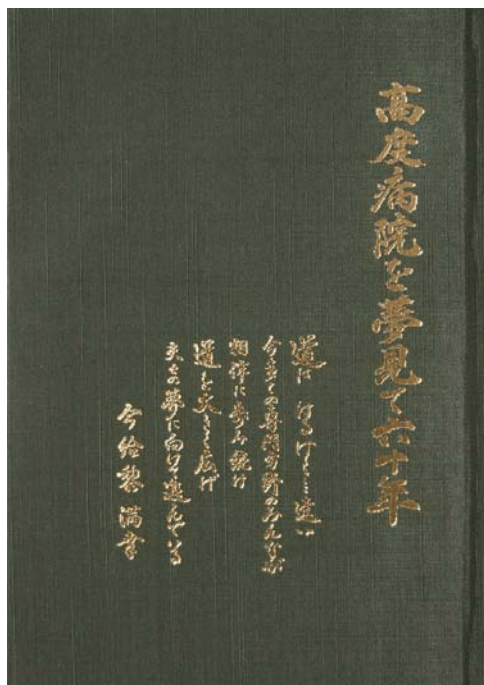
上町地区から離れがたく鹿児島駅前の土地（約6千坪）や県の浜の町の土地（約8千坪）を希望したが実現しないまま約15年が経過した。2年前に旧交通局跡地（約7千坪）の入札があり、南国殖産株式会社がいわゆるコンパクトシティを計画し入札を勝ち取り、そのお誘いをうけて上町地区を出る決心をした。

コンパクトシティとは、中心市街地の活性化を図るために生活に必要な機能が1箇所で効率的に利用できる場所で、今回の計画は病院の他、ホテル、マンション、商業施設が建設される計画である。今回は当院とキラメキテラスヘルスケアホスピタル、駐車場棟、エネルギー棟が新築オープンし、2年後にホテル、マンション、商業施設が建築予定されている。

回復期のキラメキテラスヘルスケアホスピタルと急性期のいまきいれ総合病院が廊下で繋がって連携している。

鹿児島の高齢化が進行し人口減となり2040年には約40万人減するという。急性期病院で治療し、その後を見守っていく回復期病院の充実益々必要になっていくのではと思う。

今年の消化器外科学会総会のタイトルは4字熟語の「雲外蒼天」という。病院移転という難仕事を乗り越え努力していけば新しい世界が開けるのではないかと考えている。も



会長懷古録

う一つは先代が20数年前に「高度病院を夢見て六十年」という本を上梓している。はるか雲の上にあるであろう高度病院を目指して精進していこうと思う令和3年の新年となった。